

# 認知症SOS模擬訓練

## 【目的】

認知症についての正しい知識をもち、認知症の人やその家族への理解を深めるとともに、認知症の人が安心して外出ができるよう、行方不明時の対応や日頃からの声掛けや見守り方法を周知すること

## 【経過】

年度	平成30年度(1回目)	令和元年度(2回目)
主催	諫早市	諫早市
日時	平成30年11月22日(木) 13:00~16:30	令和元年11月19日(火) 13:00~16:30
場所	西諫早公民館および周辺	諫早市民センターおよび 栄町アーケード他
参加者	92名	160名
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○認知症の人の正しい理解と対応</li> <li>○屋外訓練 (認知症SOS模擬訓練)</li> <li>・当事者視点からのアドバイス</li> <li>○介護予防のための手ばかり栄養 肉団子汁提供:栄養士会会員</li> </ul>	<p>【第1部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○認知症のことを理解し、認知症バリアフリーを学ぶ</li> <li>・当事者視点からのアドバイス</li> <li>・諫早警察署生活交通安全課による説明</li> <li>○声掛け練習</li> </ul> <p>【第2部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○模擬訓練</li> <li>○介護予防のための手ばかり栄養 肉団子汁提供:栄養士会会員</li> </ul>

## 平成30年度・令和元年度のアンケートより

- 「今回のような訓練をやってほしい」
- 「ほかのところで実施してほしい」
- 「自分の地区でもやってほしい」
- 「こういう訓練を何回も広く行うことによって、住民の意識も高まると思う」
- 「子どもや青年期など年齢層も幅広く実施できればよりよいものになると思う」



**R5年度は住民主体の認知症SOS模擬訓練を実施**

## 【R5年度 有喜地区認知症SOS模擬訓練】

主催	有喜地区住民
日時	令和6年3月30日(土)13時~16時
場所	潮騒ふれあい会館および周辺
参加者	110名(内住民63名)
関係機関	長崎県希望大使 キャラバン・メイト 出ログループ、グループホーム(山鳩の里、イーハトーブ) 諫早警察署、有喜交番 消防団、銀行、郵便局、商店、漁協 有喜公民館、市危機管理課
内容	声掛け編:認知症の人を見つけたら、声をかけ、所定の場所に誘導する。 搜索編:オレンジセーフティネット(認知症高齢者等搜索システム)を活用して、 認知症の本人役の人を搜索する訓練。

### 【住民主体のSOS模擬訓練実施にかかる支援のポイント】

#### ①側面的な支援を行う

- ・地域住民をメンバーとしたワーキンググループを作成。
- ・語らん場にて認知症に対する認識を把握し、取り組みの方向性を決定。

#### ②担当の地域包括支援センターと協働し、住民の負担感を軽減する

- ・地域の実情を把握している生活支援コーディネーターが住民のモチベーションを維持し、常に情報共有しながら介入。

#### ③認知症の理解に関する地域の気運を高める

- ・多世代を対象に認知症サポーター養成講座の実施。  
(自治会、民生委員、消防、いきいきサロン、小学生など)
- ・サポーター養成講座にて、オレンジセーフティネットについて説明。
- ・住民ができる役割を考え、主体的に参加できるよう支援。  
(受付や参加の呼び込み、班回覧の実施など)

#### ④住民主体で2回目を実施できるよう、関係機関と協働する

- ・長崎県希望大使
- ・キャラバン・メイト
- ・出ログループ、グループホーム(山鳩の里、イーハトーブ)
- ・諫早警察署、有喜交番
- ・消防団、銀行、郵便局、商店、漁協
- ・有喜公民館、市危機管理課

#### ⑤地域に合った形態で実施

- ・実際の搜索事案や有喜地区で起こり得る事例の想定を住民と一緒に検討。
- ・住民と模擬訓練のコースを決定。(町内を歩き、危険箇所を確認)

## 意見交換

【1】住民主体で認知症SOS模擬訓練を実施することの効果や今後、市内に広げていくにあたっての留意点・工夫点について

【2】お互いのグループで出た意見を共有